<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

事業所番号	2371400793
法人名	有限会社　かがやき
事業所名	グループホーム「かがやき」
訪問調査日	平成　20　年　10　月　30　日
評価確定日	平成　20　年　11　月　13　日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年11月7日

【評価実施概要】

事業所番号	2371400793
法人名	有限会社　かがやき
事業所名	グループホーム「かがやき」
所在地	名古屋市緑区有松南415番の1 （電　話）052-625-6673

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地　N203号室		
訪問調査日	平成20年10月30日	評価確定日	平成20年11月13日

【情報提供票より】（平成20年10月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　15　年　4　月　15　日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　12　人
職員数	17　人	常勤　6　人，非常勤　11 人，常勤換算　7　人

（2）建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての　1階　～　2階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,000　円		その他の経費（月額）	24,900　円
敷　金	無			
保証金の有無 （入居一時金含む）	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円
	夕食	450　円	おやつ	150　円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（10月1日現在）

利用者人数		12 名	男性	0 名	女性　12 名
要介護1		1　名	要介護2	3　名	
要介護3		6　名	要介護4	1　名	
要介護5		1　名	要支援2	0　名	
年齢	平均	83.5 歳	最低	77 歳	最高　90 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	南医療生活協同組合　有松診療所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設6年目を迎えた当ホームは、1ユニット6人、2ユニット12人の利用者が暮らしており、大高緑地の東に位置する閑静な住宅地の中にある。木のぬくもりを大切にしたホームの建物は、家庭的で落ち着いた雰囲気が感じられ、地域の中に溶け込んでいる。「自分らしく、かがやいて生きる」を理念に掲げ、代表者や管理者の持つ「利用者の自分らしさや尊厳を大切に支援する」という信念は職員にも浸透している。一人ひとりの利用者の家族とのつながりを大切にし、「家族とともに支援する」という考えを持ち、行事などで利用者と家族が一緒に過ごす時間を大切にしている。また開設当初より地域への働きかけに努め、地域住民とのつながりは深くなっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価結果の課題である「地域とのつながりの一層の強化」において、ホーム発行の「かがやきニュース」を地域住民に配布したり、地域の子供たちをホームの行事に招くなど、積極的に交流に取り組んでいる。避難訓練には地域に協力を呼びかけ、参加を得られている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

サービス評価の結果を運営推進会議で取り上げたり、職員会議でも話し合いを持ち、情報の共有化を行なっている。検討された改善策は、職員全員で日々のサービスの向上に活かすよう取り組まれている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

会議では、ホームの活動報告を行なうと共に、「グループホームの取り組みについて」の講演を開催し、職員間で意見交換を行なっている。運営推進会議には区政協力委員長、民生委員会会長、学識経験者、協力医、家族会代表など多方面からの参加が得られ、ホームの質の向上につながる提案なども出されている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

今回実施の「家族アンケート結果」では、多くの家族から高い満足度を得ている。毎月ホームの行事等を掲載した「かがやきニュース」を発行し、家族に送付している。「家族と共に行なう介護」を大切にし、家族とのつながりを持つ機会を多く持ち、細かなことでも家族に相談したり、家族から意見や不安を吸い上げるよう取り組んでいる。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

町内会への加入、地域行事への参加、「かがやきニュース」の地域への配布など、積極的に地域へ情報発信を行なっている。昨年の懸案事項である子供達をホームに招いての「お菓子作り」も行なわれ、地域住民が気軽に立ち寄れるホームを目指した実践がなされている。

2. 評価結果（詳細）

（ ▭ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「かがやいて生きる」という言葉を大切にし、生きがいと役割を持ってゆったりのんびりと普通の生活を送ることを理念として掲げている。開所当初より地域密着型サービスとしての役割を目指した取り組みがなされている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関や職員室にも掲示してある。ケース検討会議などで常に理念を確認している。管理者の持つ理念に対する考えや思いは職員に共通認識されている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、ホーム発行の「かがやきニュース」を地域に配布するとともに、地域行事への参加も積極的に行なっている。地域の子供達をホームの行事に招いたり、中学生の体験学習の受け入れを行なうなど、地域との交流に努めている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で取り組み、意義を理解している。評価の結果で得られた反省や気づきは職員会議で取り上げ、改善策を検討するなど、日々のサービス向上に活かす努力がなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族会代表、行政や地域関係者、大学の有識者、協力医など多方面からの参加が得られている。ホームの取り組みの現状や評価結果の報告、他事業所の事例紹介など、様々なテーマで話し合いが行なわれ、サービス向上に活かされている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、認知症介護指導者として、実践者研修に参加するなど、グループホーム全体のサービス向上に貢献しており、その経験などをホームの運営に活かしている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの予定や出来事を記載した「かがやきニュース」を家族に毎月発送している。ホームに定期的に訪れる家族が多く、来所された時には、ホームで生活する一人ひとりの様子や変化などについて報告相談する機会となっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族旅行やホームの行事に、家族の参加を呼びかけるなど、職員との交流や懇談の機会を多く作り、意見や苦情を吸い上げるように努めている。運営推進会議には家族会代表が参加しており、意見は職員会議等に反映させ、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員同士での業務上の検討会を開いたり、定期的に管理者が職員と面談を行なうなど、職員の異動や離職を最小限に抑える努力を行なっている。職員の異動時には利用者と家族には必ず挨拶と報告を行なっている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供を行ない、研修費用の事業所負担など、参加しやすい機会を作っている。研修会参加後には、職員会議などで報告をしてもらい、他の職員と共にホームのサービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームの管理者をはじめ「県GH協会の調査・研究委員会」に所属したり、「名古屋市認知症リーダー会」に参加している。ホームの就業時研修には、他のグループホームへの訪問実習を行なうなど、他の事業所との交流を大切にし、サービスの向上への取り組みを行なっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一人ひとりが安心して納得した生活ができるよう、入居前には本人、家族と面談し、じっくりと話をする機会をもうけている。体験宿泊（7000円/泊）の体制もととのえている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩である、という考えを職員が共有しており、日常の調理、洗濯、掃除などで生活の知恵を教えて頂く場面が多い。喜怒哀楽のすべてを共にし、暮らすという姿勢を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活のリズムを把握し、個々の思いや意向の聞き取りをしっかりと行なっている。意思疎通が困難な方には、本人の表情やしぐさ、家族からの情報を得るなど、可能な限り職員間で検討し、対応に努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、職員の話し合いの中で、介護計画を作成している。介護計画は、個々のファイルに保管され、職員はいつでも見ることができ、日々のケアに活かされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の申し送りの中から、一人ひとりの生活の現状は常に職員間で共有している。状態変化がある場合は、必要に応じて話し合い、介護計画の見直しを行なっている。	○	介護計画の見直しの過程において、引き続き、よりきめ細やかな場面を反映した計画の検討にも期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への通院支援や、お盆、お正月などの外泊支援などに柔軟な対応を行なっている。医療連携加算体制をとっており、緊急時の対応の確立に努めている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医、看護師の定期訪問のほか、利用者や家族が希望する医療を受けられる柔軟な対応を行なっている。認知症専門医への受診も行ない、相談できるような体制の確立に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホーム入居時、「重度化や終末期に向けた対応方針」について承諾書を得ており、家族、医療関係者、職員が話し合いをし、情報の共有化を行なっている。主治医との連携、訪問看護の24時間体制の確立、ターミナルケアについての勉強会を行なうなど、対応レベルの向上に努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、誇りや尊厳を傷つけるような言葉かけをしないよう、また、一人ひとりの思いを大切にしたケアを行なうよう努めている。書類等の個人名をイニシャルにするなど、個人データの管理については徹底するよう注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物など、時間を決めずになるべく個々の生活リズムを大切にしている。職員が一方的に決めるのではなく、一人ひとりが自己選択できる工夫をしながら、個人の希望に沿った日常を送れるように支援している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週1回「献立会議」を開き、好みや希望を反映させながら利用者を中心に献立を決めている。買い物、準備、調理、配膳、下膳、片付けまで、みんなで楽しく行なえるよう、取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴はできる限り毎日支援しており、ゆったり、のんびり入浴していただけるように努めている。入浴を拒む方にはシャワー浴や清拭等を行ない、柔軟な対応を行なっている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や希望を把握し、食事作りや趣味など、できること、やりたいことに参加して頂いている。書道の作品などは地域の施設に飾る機会もあり、張り合いのある行事やレクリエーションになるよう取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームでは、時間などの制約もなく自由に外出の機会を作っている。喫茶店や近所の美容院などへも職員体制をととのえて外出の支援を行なっており、日常生活の中で気分転換が図れるよう努めている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「鍵をかけないケア」がなぜ大切なのか、意義について繰り返し職員会議などで話し合っている。外へ出られる方に対して、他の方が気を配り声をかける場面もあり、「一緒に生活する人」ととして、みんなで見守る体制を整える工夫がされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時マニュアルなどが職員室に完備され、職員が常時意識できるようにしている。地域住民にも呼びかけ、年2回、避難訓練を実施している。災害時備蓄も整えており、地域独居老人の災害時受け入れについても検討されている。	○	日頃からの地域住民との交流を一層深め、避難訓練などに多くの参加を求め、協力体制が強化できることを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握するために、毎食後チェック表に記録している。献立会議で立てた献立表は、管理栄養士の指導を受け、栄養面についての配慮もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木造の温もりが感じられ、居間には大小のテーブルやソファーが設置されており、ゆったりと寛げる空間となっている。廊下も広く、行事などの写真や創作作品が飾られている。床暖房が完備され、居心地よく過ごせる環境となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたベッドや家具などを持ち込んで頂いている。本人や家族に相談し、個性を大切にした一人ひとりの好みの生活空間を作り出すよう工夫している。		